

カトリック仙台司教区・ **カリタスジャパン**

東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座:00170-5-95979
名義:カリタスジャパン

3・11から1年。 さまざまな所で祈りが捧げられました。 犠牲者に安息！
被災者に希望！ 支援者に感謝！ そして... わたしたちはあゆみつづけます。

皆様は、どこでどんな 3 月 11 日を迎えられたでしょうか。仙台教区サポートセンターは、ベースも事務局も、何か特別なイベントを計画するでもなく、いつも通りの活動を続けつつ、被災された方々と心を合わせて祈る日と位置づけて一日を過ごしました。

この一年、本当に、信じられないほど多くの方々に支えられ、活動を続けていくことができました。今日はそのうちの何名かがサポセン事務局を訪れて下さり、嬉しい再会を果たしました。きっと各ベースでもそうした再会があったのではないかと思います。1 年の間、めまぐるしく変化する状況に右往左往しながら、ほとんど活動を振り返ることもできず、ただ目の前の事態に対応してきましたが、さすがに今日はこれまでのことを思い起こす一日となりました。

被災された方々、地域の方々、スタッフ、ボランティア、支援者の皆さん、多くの方との出会いと協働がありました。思い起こして心に浮かんでくるのは、感謝だけです。本当に、有り難いことです。足りない部分も多々ありましたが、自分たちの足りなさはむしろ、人々とともに歩いていくための糧であるということ



サポートセンター一同

をボランティアの皆さんに教えてもらいました。どうか、これからもこの有り難い歩みを共に続けていけたらと願っております。今後ともどうぞよろしくお願いします。

感謝のうちに！

仙台教区サポートセンター一同

米川ベースの3・11

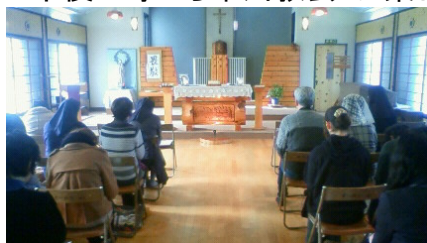
3 月 11 日、南三陸町では慰霊祭が行われるためボランティアセンターは閉じられ、活動は全て休止でした。

米川ベースに来ておられるボランティアの方は、初めて被災地に来る人が多かったので、気仙沼の岩井崎という国立公園へ行き、南三陸町以外にも沢山支援を必要としている場所がある事を、実際目で見ていただき、皆で体感しました。

そして震災で亡くなられた全ての方、いまだ行方不明の方のために、気仙沼の岬で海に向かい、お線香をあげ、皆でお祈りをしました。

ここのあまりの被害状況に泣いてしまうボランティアの方もいらっしゃいましたので、他の被災状況も見せようと思ったのですが、変更し南町商店街でお昼を食べ、米川教会のミサに参加するために、教会へ向かいました。

午後 2 時から米川教会で「東日本大震災犠牲者追悼と復興祈願ミサ」が捧げられました。



米川教会でのミサ！

ミサが終わってから 5 分後・2 時 46 分にサイレンが鳴り、皆で一分間の黙祷を捧げました。大震災から一年を迎え、日本中でこの時間に祈りが

捧げられ、沈黙の中で全ての人との繋がりを感じる事ができました。

今まで米川ベースを支えてくださったボランティアの皆さん、仙台教区サポートセンターの皆さん、そして様々な形で支援して下さった皆さん、本当にありがとうございました！！

日々気持ちを新たに復興に向けて活動していきたいと思っておりますのでこれからもよろしくお願いいたします。

南相馬で捧げられたいのり！



南相馬の海岸で！

CTVCでは「追悼と被災地復興のため祈る 3・11 南相馬一日巡礼」として、東京から約 50 名の参加者とともに、南相馬市カトリック原町教会にて追悼と復興祈願ミサを行いました。

南相馬市沿岸部の北泉海岸では、原町教会協力司祭の梅津神父様手作りの十字架のもとに参加者全員が献花をし、犠牲者の方々への追悼の祈りを捧げました。また原町教会では、午後 2 時 46 分からの黙とうに続き、今回の地震による福島第一原発により警戒区域となっている大熊町、浪江町、双葉町、南相馬市などの犠牲者のために、それぞれ計 7 つのろうそくが捧げられ、幸田和生東京教区補佐司教の主式により、原町教会の信徒の方々とともに、福島

の松木町教会、白河教会からも信徒が参加し、計 100 名の祈りとなりました。また、全村避難により無人となっている飯館村や警戒区域立ち入り禁止地点を訪れ、風評被害を受けている川俣町の特産をお弁当にするなど、現在福島県が抱えている原発事故による問題を学ぶ場となりました。

1 年が過ぎたこの日に、それぞれの想いを胸に皆がこの場に集い、犠牲になったの方々のご冥福をお祈りするとともに、福島の実状を知り、「忘れない」という思いを強く心に刻む一日となりました。



東京からもたくさんの方々が共に祈りました

3・11 は、テゼの祈りによって...

3 月 11 日、私たちみんなが祈りのうちに一致したことを心から嬉しく思います。被災地にあっても、また世界中のどこにあっても諸聖人の交わりの中へと招かれていることを実感する一日でした。



テゼの祈りを捧げます！

釜石ベースでは、14:00から「テゼの祈り」が行われました。この祈りは英隆一朗神父様リードで行われ、この中で、震災後一年を静かに振り返りました。この祈りには、ボランティアや教会の信徒の方々だけでなく、ご近所の方や信者でない方も大勢参加して、共に祈ることができたのは、とてもうれしいことでした。



ミサを捧げた後で！

によって、参加者の心が一つに結ばれるように感じました。

まだまだ、先の見えない復興への道のりですが、皆様とともに一歩ずつ、しかし確実に光へ向かって歩いて行きたいです。

夜は復興を祈るキャンドルが灯る！

午後5時から9時まで、釜石市内の中心部にある青葉通りに、昨年の 8.11 に行った「キャンドルナイトかまいし復興の祈り」が行われました。

夏のときと同様に、釜石ベースはそのお手伝いをいたしました。



釜石市のキャンドルナイト！

キャンドルにメッセージを書き入れること、そのキャンドルを並べたり、時間がくると点灯しました。風で灯が消えないようにしたり、消えたらすぐ着けるように気を配り、最後の撤収までお手伝いしました。

釜石市に住む人だけでなく、大槌やその他の町からもこのキャンドルナイトの炎を見つめ、祈りにふけている人々の姿が見られました。この時間中、常時 300 名くらいの方が集まっていました。

今日、この地に居ることへの感謝！

震災から一年が経ちました。被災された方のことを思い、各々で一日を過ごしました。

3 月 11 日ということで臨時のお茶っこを開催しました。地ノ森仮設住宅の方も来てくださり、ベース近辺の方も多数訪ねてくださいました。この日には、終始ベース内には、8 名以上の方が集っていらっしゃいました。

震災からちょうど一年ということもあり、今まで被災の話を避けられていた方も、被災当時のお話をしてくださり、なにか気持ちが変わるのだなと感じました。

ベース内では、電子オルガンを利用してバックミュージックを弾いたり、一緒に歌ったりとにぎやかでしたが、震災時間になると皆でテレビを見て黙祷を捧げました。そして、ベースの駐車場で、キャンドル点火をしてみんなで黙祷を捧げました。

ボランティアに來られた方々の中には、大船渡教会で追悼ミサに与る方もいましたし、市民のイベントに参加する方もいました。そして、今日という日にこの地にいたことに感謝を述べておられました。

宮古では札幌教区とともに！

3 月 11 日はボランティア活動を休止。ベースのスタッフ、ボランティアは札幌から來られた今田玄五神父様によるミサ・黙想会に出席し、午後は宮古市主催の追悼式に、同神父様と数人の信徒と共に全員で参列、献花し祈りました。

[札幌後方支援隊では]

ベースになっている宮古教会主任マルコ神父さんを札幌にお迎えし、祈り、一年の間を振り返りつつこれからの継続を誓い合いました。



宮古市の慰霊祭に参加しました

ボランティアに行った人、これから行こうとする人、後方で支えている人、被災地の様子を知りたい人など 130 人が集まりました。先週宮古から帰ってきたボランティアが鉾ヶ崎仮設で出会った人々の声を紹介してくださいました。

「ここにいる時だけ泣かずにいられる。話したい時に話して、話したくない時に話さないで、泣きたい時に泣いて、毎日人に会うのがいいのさ」という声を。

復興支援の長い道のりを神さまに祈る

3 月 11 日大槌ベースでは、特定の作業を設けず、ボランティアさんに町の様子も見えていただきたく、各人ごとの行動としました。

昨日に引き続きマストの写真展示会のお手伝いに行った人もいました。

釜石駅で行われているキャンドル点火のお手伝いに行った人もいます。他の人は、親族のみで行われている献花の様子を拝見したり、普段、誰もいない大槌の町に人が帰ってきて、お祈りやお花をささげている姿などを見、心を合わせて共に祈りました。



家の跡に花が捧げられる

本当に 1 年たったのだなと感じる一方で、それでもまだまだ被災の跡が色濃く残っているなとも感じました。



自分たちの家のあった場所で祈る

先は見えず長い活動の道ですが、継続していく力を、神様にお祈りしながら明日からのきっかけにしたいと思いました。



大船渡ベースのキャンドル

世界と福島が一つの祈りで結ばれる！

昨年、東日本大震災「避難所」として、福島在住のフィリピン人とそのご家族延 450 人を受け入れたフランシスカン・チャペルセンターで、3 月 10 日(土)11 時から「3・11 メモリアル集会」が開かれました。

福島から 100 名のフィリピン人をはじめ、東京教区のフィリピンコミュニティのメンバー、日本人ボランティア、大使館関係者など 250 人が集いました。

最初にこの一年の分かち合いが行われ、タガログ語、英語、日本語を交えてのミサでは、厳粛な雰囲気の中で、分かち合いの時間に作成されたメッセージが張り付けられた福島県の地図が奉獻され、未来への希望を確かめ合いました。交流会では福島からの来場者全員による「I love you & I need you ふくしま」の大合唱で、盛り上がりは最高潮に達しました。カトリック東京国際センターCTIC から「福島で仙台教区フィリピンコミュニティの交流会を企画中である」との発表があると、会場には驚きの声が上がりました。



フィリピンと福島が結ばれる！



参加者全員で！

福島から参加したキャサリンさんは、「全く交流のなかった東北と東京のフィリピン人が、震災後の出来事を通して交流し、励まし合うことができるようになったことは、お恵みです」と語っていました。「福島で会いましょう」と言葉を掛け合いながら、再会を誓い合いました。

フィリピン大使のあいさつ！→

もみの木のもとに 80 名が集い！

震災から 1 年となる節目の日である 3 月 11 日には、宗教色を極力抑えて祈りの集いが行われた。

当日は市内各所で追悼集会が行われるため、参加者は 30 名も来るかどうかといった反応だったが、予定時間の 1 時間も前から参加者が訪れ、祈りの集いが始まるころには 80 名近くが集まり、立錫の余地もないほどだった。しかも、半分近くがこれまでもみの木を訪れたことのない方々だった。うれしい誤算である。震災発生時刻には 1 分間の黙とうが行われ、一人一人の祈りのカードが祭壇に供えられ、それぞれの思いを込めた祈りが唱えられた。

翌日からは平常の活動に戻ったが、来てくださる全員が祈りの集いに感謝の言葉をかけてくれたのが、心底うれしかった。

これからも、仮設からすべての人が自立し、全家庭が本当に自立し、最後の一人が仮設を後にするまで変わらぬサービスを提供し、サポートしていく所存である。（もみの木ステーション長 丹 弘）



みんなの思いのりありがとう！



3・11 から 1 年。 さまざまな所で祈りが捧げられました。 犠牲者に安息！
被災者に希望！ 支援者に感謝！ そして... わたしたちはあゆみつづけます。

仙台カテドラルの 3・11

復興祈願ミサが各小教区で捧げられました。

仙台のカテドラル（元寺小路教会）では市内の教会、県内の教会だけでなく、県外からも一緒にミサをささげるために 500 名余りの方々が集まり、2 時 30 分から信徒の方が作製した震災後の復興への歩みを振り返る映像を観ながら、静かに 1 年間の歩みを振り返りました。

その後 2 時 46 分から黙とうを捧げ、平賀徹夫仙台教区司教の主司式によるミサが始まりました。共同司式は、小松史朗、渡辺彰宏、ホセ各神父。



ミサの説教でこれからも歩み続けることを明言

ミサの説教の中で平賀司教は今後も我々カトリック教会は復興の歩みの中で谷間に置かれる人々に寄り添い、ともに歩むことを明言なさいました。本当にたくさんの方々がミサに集まり、この出来事が被災地のことではなく、わたしたちのことなのだと関心の強さが伝わり、心強さを感じました。

新たな 1 年の幕開けです。正念場の一年になることと感じています。わたしたち教会が人々の中で光となることが出来ますように……。本来の教会の存在意義を証し続けられますように……と祈ります。

これまでの皆さま方のお心に感謝するとともに、今後とも仙台教区のため、何よりも被災した方々一人ひとりと歩む活動をご支援くださるようお願いいたします。

（仙台教区事務局長 小松史朗）



聖堂が満員！教会関係者もたくさん被災しました！



ミサの終わりに聖堂前にて被災地の商品の即売